

## 球技 3（バレーボール）の授業評価・授業研究報告書

保健体育講座・福田 隆

### 1-1 授業の概観

本授業（球技 3：バレーボール）は、1年・2年の後学期に開講する科目であり、各年開講としている。また、中等教育コース：保健体育専攻の必修科目である。バレーボールに関する内容として、2015年までは、ボールゲーム E として開講され、後学期の半分をハンドボールとバレーボールを分離して開講していた。また、クラスの構成メンバーも隔年で男女を分離した形で実施していた。

2016年から、カリキュラムの大幅な改定がなされ、これまで実技実施回数が7回から、半期の15回に変更となった。しかし、中等教育コース：保健体育専攻の必修科目として開講するため、対象者が少数となることから、男女合同のクラスとして開講せざるを得ない状況となった。

しかし予想に反し、今学期の受講学生数は、男子23名、女子13名の計36名であった。

### 1-2 授業の目的

授業の目的は、バレーボールの指導者として必要な基本的な知識と指導法を学習する。また、ボールゲームの基本動作をデモンストレーションできるように必要な能力を養成する。さらに、応用的技術として、各種フォーメーションやルールを理解し、審判方法やゲームの運営法を学習することである。

### 1-3 授業の到達目標

#### 1) (知識・思考)

バレーボールにおける基本的な知識を正しく理解し、論理的に説明できる。指導対象者に合わせた指導の在り方と指導技術について理解する。

#### 2) (技能・表現)

子どもの発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができ、個に応じた指導や説明ができる。技術的に高レベルのパフォーマンスを行うことができる。

#### 3) (意欲・関心・態度)

スポーツにおける技術を科学的側面から観察することができる。スポーツの未熟練者に適切な指導ができる。

### 1-4 授業の概要

授業は、実技練習が中心となるが、方法論や理論的な説明も多く取り入れた。個人の技術向上を

ねらうが、学生が相互に指導者と生徒の立場に別れ、お互いに指導しあうことにより、指導能力と各個人の技能の向上を目指した。実技の内容は以下のとおりである。ウォーミングアップ、指導補助技術(ボールの投げ方等)、基本姿勢、アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、ミート、アタック、ブロック、サーブ、レシーブ等である。

### 2 授業評価法

授業の評価は、基本技術・審判方法・指導方法に関する実技試験による技能向上度と理解度の結果を分析した。また、レポートおよびアンケートの結果によって行った。学生アンケートの形態は、自由記述型のものとして幅広く学生の評価を得ることを目的とした。

### 3 授業評価結果

受講生は36名であり、技術練習やゲームを行うに当たっても適した状況で開講できた。体育館もバレーボールコート2面が占有でき、指導環境としては、最適であった。課題であったバレーボールコートの設営に要する時間の短縮については、バレーボール部員が指導的な立場となり、受講者が協力して手際よく授業の準備にあたってくれた。これらの作業は、授業を効率よく行うためだけでなく、学生が指導者になった時には、欠かすことができない知識の一つになるであろう。

授業の回数が15回に増加したことから、知識的な部分での理解度の向上は、かなり改善できた。しかし、技能習得のために、授業時間外の復習や練習が必要であることを学生に伝えていたが、目標としていた水準には達成できなかったと思える。

知識・理解度を確認するためにレポートの作成を求めた。しかし、授業中に説明した指導ポイントの多くが、忘れ去られていたことが明らかとなった。実技中心の授業であるが、必要事項を整理したプリントの配布や、授業中においてノートに記入できるような工夫をしていきたい。

学生の意識として、自分が知識・技能獲得をするとゲームを楽しみたくなる欲求が高まる。しかし、上手くできない生徒にいかに関適切な指導ができるかが本来の目的であることから、指導する場面設定を工夫する等の授業計画を再検討していきたい。

